

横切り、その様はあたかも「狐の嫁入りの提灯行列」を思わせ、子どもの私たちはそれを見て疑つなかつた。

縁というのには不思議なものである。今、私は少年時代に遠く遙かに見ていた阿武隈山地のど真中に住んでいるのである。なぜなら、そこに私の妻が生まれ、その実家に私が住んでいるからである。

ここ岩代町田沢は、北に麓山、南に県立自然公園に指定された日山との間に狭まれた小さな集落である。集落の中央に県道二本松・浪江線が走り、その沿道にわずかな民家が点在し、大抵の家屋は自然の緑の中に吸収され、その姿を隠している。

私の家の裏側には深い山がある。その山を登りつめると、眼前に麓山の山頂の岩肌が手に届くように迫つて見える。そして眼下には田沢の集落があり、そこで箱庭のように眺望できる。それが楽しみで今は中三になった息子と弁当を背負つて登つたりもした。

驚くことは、その息子の方が私よりもこの田沢部落に詳しいことである。この子にとつてはここが古里であり、かけがえのない所なのである。私が少年時代この東山を遙かに遠く思つたように、この子はきっと西山を遠く無縁の山だと思つているに違ひない。

国体準備室の時計の針は、すでに夕方五時を回っています。



打合せ

(岩代町立小浜中学校教諭)

私にとつて、たまらなく郷愁を誘わ  
れる場所がある。そこは出勤途上にあ  
る合戦場という小高い丘である。その  
丘は桑園になつていて、今は不要と  
なつた半鐘のやぐらがやや傾き加減に  
佇み、どことなく風情のある所である。  
その斜面の向うに安達太良の山並みが  
一際浮き立つて見える。それは決まつ  
て晴れ渡った朝に見る風景であるが、  
それには会うたびに激しい感動を覚え  
るのである。そして、少年時代の「狐  
火」の幻想と現実との映像の重なりの  
中で、遠い昔を懷しむのである。

「打合せ」をお願いいたします。今日はありがとうございました。これで○についての打合せを終わります

すぐに、別の担当から「明日日の会議の段取りについて、お願いたします」と声がかかり、引き続いて次の「打合せ」が始まります。

このようにして、短いときで二十分前後、長いときは、三時間余にも及ぶことがあります。「打合せ」の時間が長くなると、夕食を取る時間もないためおながくペこくになり、目もしょぼくになることもあります。

こんな日の翌日の朝にも八時半前から何人かで激論を戦わしている強者の担当もいるのです。

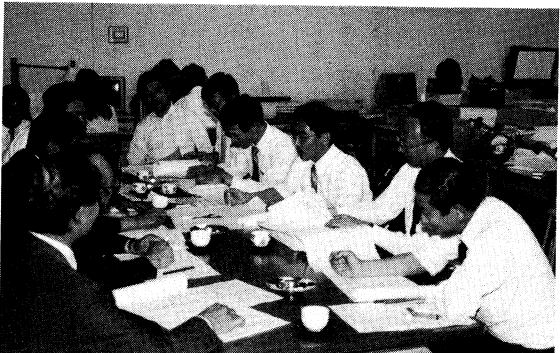
集まつて下さい」いつもの夕方の打合せの始まりです。

資料が配布され、担当が説明します。「これから○○について打合せを行います。はじめに概略を説明いたします。

.....以上で概略の説明

を終わります  
すぐに、質問や意見が「△△について  
では……………」のようににして  
はどうか」「□□のところは、何か  
もっと良い表現はないか?」等々、  
次々に飛び出します。

…………思ひます。△△については、…………のように、□□のところは、…………のように訂正してまとめてみますので、明日にでもまた、



国体成功に向けて繰り返される綿密な打合せ

昭和七十年に本県で開催する「第五十回国民体育大会の成功」を願い、開催準備の推進に明るい雰囲気で積極的に日夜努力しているのです。